

**陸前高田市人口ビジョン及び第2期まち・ひと・しごと総合戦略(案)
パブリックコメントで寄せられたご意見に対する市の考え方**

令和2年3月

パブリックコメントの結果について

1 実施日

期日：令和2年1月24日（金）～2月22日（土）

2 意見等の件数

29件

3 意見等の内訳

該当項目	件数
(1)人口ビジョン	1件
(2)総合戦略全体	7件
(3)基本目標1 「陸前高田への新たな人の流れを創造し、『しみん』が集うまちをつくる」	13件
(4)基本目標2 「若者や女性が活躍できるしごとの創出につなげ、これを支える人材を育て活かす」	3件
(5)基本目標3 「結婚・出産の希望をかなえ、子育てを協働で支える環境と、誰もが活躍できる地域社会をつくる」	2件
(6)基本目標4 「市民の安心につながる時代に合った暮らしやすいまちをつくり、地域と地域を連携する」	3件

お寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

以下にいただいたご意見の概要と、当市の考え方を掲載いたしました。

(1)人口ビジョンに対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	人口ビジョンの図について、年齢別人口と年齢階級別移動数を組み合わせた図があると分析しやすいのではないかと。	人口ビジョンにつきましては、平成27年度に策定した内容の時点修正としております。いただいたご意見につきましては、今後新たに人口ビジョンを策定する際の参考とさせていただきます。

(2)総合戦略全体に対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
2	Society5.0について、考え方を周知理解してもらう取り組みが必要である。	Society5.0の本戦略への位置づけについては、それぞれの基本目標を推進するにあたり、活用できる部分については、Society5.0の視点も考慮することとしているものがあります。 Society5.0の考え方につきましては、注釈で記載しているところ、その周知に係る取組については、必要性も含めて、今後検討してまいります。
3	当市で目指すべきSociety5.0の未来社会とは、どんな社会なのかがあいまいに感じる。Society5.0の実現に向けた技術の活用というのは手段であって、総合戦略では、目指すべきSociety5.0の未来社会はどういうものかを掲げると良いと思う。	本戦略の目的は、急速に進行する人口減少、少子化に対応するため、基本目標に掲げる4つの項目の実現を目指すものであり、この実現に向けた施策の中で、Society5.0の考え方が活用できる部分においては、これら新しい技術の活用等についても推進していくこととしているものがあります。
4	技術の活用について、どの基本施策にどの技術を使っていくというところが見えない。当面の基本施策の各施策で活用するSociety5.0の実現に向けた技術がある場合は、SDGsのようにアイコンなどで記すと良いと思う。	Society5.0については、今後の科学技術の進展の中で新しく生まれる技術の活用も考えられ、具体の技術も時代に沿って流動的なものとなると考えております。各施策への具体的な技術の位置付けにつきましては、個別の事業を進める上で、適切な技術の活用を検討することが重要であると考えているところであります。
5	Society5.0の実現に向けた技術の活用助成や施策を具体的に挙げてはどうか。 ①障がい者高齢者住宅のスマートホーム化(含む、行政、福祉事業者、商業者、交通事業者等へのネットワーク化) ②スマート農業化 ③福祉施設へのアシストロボット導入 ④健康保険証のICカード化による情報一元化 ⑤防災備蓄品の在庫管理需要供給発注のオンライン情報一元管理化 ⑥(すでにある技術の活用ですが)コンビニ多機能端末の利用による帳票(住民票、納税証明等)発行。将来的には、パソコン・スマートフォンによる帳票発行申請、決済、送付の受付	Society5.0の本戦略への位置づけについては、それぞれの基本目標を推進するにあたり、Society5.0の視点も考慮することとしているものです。Society5.0の実現に向けては、各基本目標の実現に向けた個別の事業の中で具体的な技術の活用等について検討してまいります。
6	当面の基本施策のうち、「その他、取り組みを進める施策」についてもKPIを設定公表してはどうか。	本戦略のKPI設定にあたっては、上位計画である「陸前高田市まちづくり総合計画」との整合を図っているところです。「その他、取り組みを進める施策」については、個別の計画等の中でKPI等目標指標の設定を検討してまいります。

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
7	<p>全ての項目ではないが、KPIの設定が、目的達成度合いを指標とするのではなく、目的達成のための手段を設定しているのは、おかしいのではないかと思う。</p> <p>例えば、基本施策②仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の確立のKPIが、仕事と生活の調和に関する講演会等の参加者数となっている。講演会参加のために通常の仕事を割いて出席し、通常の仕事時間にやる仕事を残業でこなしては本末転倒であるが、このKPIを用いるとそれでもよい方向へ向かっているとの評価になるのではないか。講演会は、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の確立の一つの手段であって、講演会参加者の増加が、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の確立の評価にはつながらないと思う。育休取得・有給取得や残業時間など評価に直結する指標設定にしてはどうか。</p>	<p>本戦略のKPI設定にあたっては、上位計画である「陸前高田市まちづくり総合計画」との整合を図っているところです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、事業を進める上で、必要性も含め検討してまいります。</p>
8	<p>高田の祭りの文化・伝統に対する支援、援助を行ってほしい。現状はボランティアや寄付などに頼らざるをえない状況が長く続いている。助成により、交流人口の増加や市の宣伝になるため検討してほしい。震災の暗いイメージだけでなく、本来の明るく楽しい陸前高田を発信してほしい。</p>	<p>本市の代表的な祭りの一つに、気仙町けんか七夕まつりと高田町うごく七夕まつりがありますが、震災後、運営やまつり会場など様々な困難の中で継続的に開催していただいております。市といたしましても、これまで開催に向けて様々な協力をしてまいりました。今後も、継続的に開催できるように祭り主催者の皆さんと連携を図るとともに、「地域交付金」の活用等についても相談に応じながら、地域の盛り上げにつなげてまいります。また、民泊体験と郷土芸能体験を合わせた事業も行っており、郷土芸能活動の活性化につながっていると認識しているところであります。今後も、地域の方々と連携しながら、進めてまいります。</p>

(3)基本目標1「陸前高田への新たな人の流れを創造し、『しみん』が集うまちをつくる」に対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
9	<p>P39の「陸前高田への新たなひとの流れを創造し、『しみん』が集うまちをつくる」について、再認定を受けたジオパークや新規認定の日本遺産の利活用や保全を通じた施策を推進していくのも良いと思う。交流人口の拡大施策ではあるが、地域の子どもの教育や体験も併せて推進していくと良いのではないかと。</p>	<p>交流人口の拡大に向けて、三陸ジオパークや、みちのく潮風トレイル、玉山金山を含む日本遺産「みちのくGOLD浪漫」については、観光関係団体や広域での連携を図り、積極的に効果的なPRに取り組みながら、受け入れ態勢を整えていかなければならないと考えております。また、地域の誇れる宝として多くの市民に認識していただくことも重要なことから、勉強会やシンポジウムなども開催してまいりたいと考えております。</p>
10	<p>P39の「陸前高田思民」制度について、思民がどのくらいいるのか、自身が思民と認識している方がどのくらいいるのかが分からない。例えば、①思民カードの発行やスマホ画面表示されるデジタル思民カードの発行②思民カード利用による優遇制度のようなことを実施すると良いと思う。</p>	<p>「思民」制度につきましては、現在の制度において、ふるさと納税の寄付者で希望する方への「思民」登録証の発行などを行っているところであります。一方、「思民」の実態数の把握については、市でも課題と認識しているところであります。現在、「思民」制度については、新たな制度設計を検討しているところであり、具体的な施策につきましても、併せて検討してまいります。</p>
11	<p>P39の「陸前高田思民」制度について、思民が求める情報発信に改善の余地があると思う。思民は、どういう情報が欲しいのか、どういう発信形態が適切なのか、見直してはどうか。</p> <p>①市公式ツイッターは災害情報がほとんどで、イベントや旬な話が無いように思う。災害情報と他の情報のアカウントを別に作ってはどうか。</p> <p>②市公式フェイスブックは、情報発信に偏りがあると感じる。例えば、ふるさと納税品のある会社の商品紹介は、頻りにシェアしてあるのに、ほかの会社の商品紹介は、ほとんどシェアされてないことに違和感がある。</p> <p>③市HP記載のイベント情報は、SNSでも発信してはどうか。</p> <p>④SNSでの思民キャンペーンを実施してはどうか。思民や来訪者に陸前高田の食、文化、芸能、自然、ランドマークなどのSNS投稿をしてもらい、賞を贈るのはどうか。</p>	<p>「思民」をはじめとした、当市に関心をお寄せいただいている方への情報発信につきましては、より分かりやすく、魅力的なものとする必要があると考えております。今後、情報発信に係る具体的な取組を進める上で、いただいたご意見につきましても参考とさせていただきます。</p>
12	<p>「思民」を増やすには宿泊施設が必須である。交流施設があっても、宿泊先が無ければ支援として滞在したいという思いに応えられない。</p>	<p>新たな宿泊場所につきましては、現在、中心市街地にホテル誘致を進めております。また、岩手県においては、広田半島への野外活動センター整備を進めているとともに、オートキャンプ場モビリアのリニューアルの検討を行っておりますので、内容等について、意見交換を行っております。</p>

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
13	P41の「地元生産者と連携した障がいのある方や女性などの就労支援」について、「首都圏の企業・団体との提携により」とあるが、市内・三陸圏内・岩手県内にも、この取り組みを進めるうえでのパートナーとなりうる企業・団体があると思う。このような限定的な表現にする必要があるか。地元企業・団体との連携は、地域活力の向上にもつながると思う。	首都圏の企業・団体との具体的な連携が見込まれていることも踏まえ、このような記載にしておりましたが、ご指摘のとおり市内・三陸圏内・岩手県内にもパートナーとなりうる企業・団体はあると考えられますので、首都圏に限定しない表現に修正いたします。
14	P41の「小中学校の空き校舎を活用した市民と学生の交流活動拠点の設置」について、学生や研究者が研究活動やボランティア活動を行う拠点施設の整備は、グローバルキャンパスと二又交流センターとして整備が終わっているのではないか。	市内の空き校舎につきましては、それぞれ活用方法が検討されているところであります。本項目については、活用方法のひとつとして掲げているものであり、特定の拠点を示しているものではないため、一部表現を修正いたします。
15	P41の「小中学校の空き校舎を活用した市民と学生の交流活動拠点の設置」について、沿岸の主力産業である水産業の後継者を育成する教育施設の誘致について、過去に旧長部小学校への誘致計画があつて相手方が辞退した経緯があると思うが、改めて誘致を進めるという理解でよいか。	市内の空き校舎につきましては、それぞれ活用方法が検討されているところであります。本項目については、活用方法のひとつとして掲げているものであり、特定の拠点を示しているものではないため、一部表現を修正いたします。
16	P41の遊休農地の定期オーナーは良い取組と思うが、関連してモビリアのようなキャンプ施設を整備し、自分で収穫したものを現地で味わえるようにしてはどうか。また、生産者との顔の見える交流機会の創出や漁業体験も組み込むべき。	現在、オートキャンプ場モビリアについては、岩手県に対して、リニューアルの要望を行っているところであります。岩手県からは、「応急仮設住宅の撤去時期が明示されたことを踏まえ、施設の今後のあり方について、本市の意見や協力をいただきながら、検討を進めていく」との回答を得たところでありますので、岩手県との協議の中で、ご意見をいただきました内容を含めたリニューアルの提案もしてまいりたいと考えます。
17	P42の「ノーマライゼーションツアーの企画・実施」について、LGBT に対する理解の醸成の先に同性婚認定制度やそれに伴う市税等優遇制度、同性婚での養子を迎え入れた場合の育休取得制度等の施策も実施してはどうか。	「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまち」の実現に向けては、まずは高齢者や障がい者、シングルマザー、外国人、LGBTの方などへの理解を深め、心のバリアをなくすことが重要と考えます。この取組の先に、パートナーシップ制度等の施行などが考えられるところであり、これらの施策につきましては、個別に検討してまいります。

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
18	<p>P42について、観光客の市内周遊には宿泊先があり、滞在時間を確保することが必要である。一ノ関駅や花巻空港、レンタカーなど交通事業者と連携した企画を実施すべき。</p> <p>また、情報板の整備やサイトマップの構築をする必要がある。</p>	<p>新たな宿泊場所につきましては、現在、中心市街地にホテル誘致を進めているとともに、岩手県においては、オートキャンプ場モビリアのリニューアルの検討を行っておりますので、内容等について意見交換を行っております。また、観光客の2次3次交通のアクセス向上につきましては、事業者と連携を図りながら、電動バイクレンタル事業やEVレンタカー事業、電気バス実証運行などの多様な取組を促進してまいります。さらに、観光客が市内周遊を楽しむことができる新たな観光マップの製作にも取り組んでまいります。</p>
19	<p>市が行うことと民間企業・NPO・一般市民が行うことの線引きがよく分からないため、記載を分けるべきではないか。</p> <p>例えば、P43のオーガニックランドについて、整備は、民間企業が行うため、表現に違和感がある。</p> <p>また、官民連携事業という表現は、包括業務委託、指定管理、しみんエネルギーのような市が出資した事業、ピーカンナツツのような協定締結したような事業を指すのではないか。単に市が整備した土地を貸すというのは、官民連携事業なのか。</p>	<p>本戦略は、行政だけではなく市民の皆様、民間企業、各種団体等が一丸となって、まちづくりを進める指針としております。本戦略に掲げる施策につきましては、主体の如何を問わず、本市が推進するものを記載しているところであります。ご意見いただいた実施主体が不明確である部分につきましては、一部表現を修正いたしました。</p> <p>オーガニックランドについては、令和元年10月にワタミグループと連携協力協定を締結しており、官民で事業を連携して推進することとなっていることから、官民連携事業として位置付けております。</p>
20	<p>P43の「オーガニックランド構想の推進」について、発酵の里とも連携し、津波伝承にもつながる自然への畏怖という観点での環境づくりをしてほしい。</p> <p>また、ゴミを出さない工夫をするなど、環境へ配慮した循環型の取組を実施してほしい。</p> <p>加えて、林業との連携による防災グッズの開発をし、伝承施設でPRを行ってはどうか。</p>	<p>オーガニックランドについては、有機・循環型社会をテーマにしており、自然の力を活用した農業テーマパークとしてワタミグループにより整備される予定です。隣接する東日本大震災津波伝承館や発酵の里とも連携しながら、「命」の大切さについて学ぶことができる場所となるよう調整を進めてまいります。</p> <p>循環型地域づくりの推進に向け、「循環型地域づくり推進協議会」を設立し、様々なご意見をいただいているところであります。新たに整備するオーガニックランドなどにおいても、地域資源である木材をはじめとした、バイオマス資源の有効的な活用を推進していくとともに、地域内での経済循環を視野に入れた取組を検討してまいります。</p> <p>地域資源を防災グッズなどにも有効に活用できるよう、事業者と連携しながら方策を検討します。</p>
21	<p>P44の「移住・定住の促進」について、移住相談の際には、福祉、教育、医療といった移住希望者が必要と思われる情報を積極的に提供していくことが必要と考える。</p>	<p>現在、委託業者であるNPO法人高田暮舎が運営するポータルサイト「たかた暮らし」の中では、福祉、教育、医療などの分野もお知らせしているところであります。今後は、相談窓口においても同様のご案内を行ってまいります。</p>

(4)基本目標2「若者や女性が活躍できるしごとの創出につなげ、これを支える人材を育て活かす」に対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
22	<p>P50の「起業家の育成と雇用を生み出す新規事業への支援」について、ここに Society5.0 の実現に向けた技術開発支援、実証実験誘致、起業支援などを挙げて推進していったらどうか。</p>	<p>Society5.0 の実現に向けた技術については、起業家・新規事業者支援の分野のみならず、幅広い取組の可能性を広げるものであることから、「重視する視点」としてP.32 に記載のとおり、各戦略の取組に積極的な活用を進めていきたいと考えております。</p>
23	<p>P51の「医療・介護・福祉職の人材確保とサービス事業の総合的な支援」について、特別養護老人ホームへの入居待機者“0”という施策を推進してはどうか。 結果として、介護福祉事業における雇用が拡大されたり、家庭内で介護していた家族が社会活動(労働、レジャー等)に参加できて社会経済が回ったりすると思う。 また、高齢になっても特別養護老人ホームに入居せずに活動できるような健康状態を維持できる施策を推進すれば医療費介護費削減にもつながり、本人が社会活動(労働、レジャー等)に参加できて社会経済が回ると思う。</p>	<p>現在、特別養護老人ホーム以外にも様々な施設があり、介護度によって様々なサービスが受けられるようになっております。現在の介護計画では新たに施設を設置予定でしたが、人材確保等の問題により設置事業者が見つからない状況であります。特別養護老人ホームへの待機者0については、貴重なご意見として受け止め、引き続き、現在ある介護資源を維持しつつ、人材確保にも努めてまいります。</p>
24	<p>P51の「医療・介護・福祉職の人材確保とサービス事業の総合的な支援」について、サービス付き高齢者住宅と空き家バンクを連携させた施策の可能性はどうか。 市内では高齢化単身世帯化が進み、特別養護老人ホームに入居せずにいても自宅での単身生活に不便や不安を抱えている方もいると思う。その受け皿にサービス付き高齢者住宅もなりうると思うが、利用入居料金が低いのもネックである。 サービス付き高齢者住宅に入居を検討している方で利用入居料金で断念した方に、自宅を空き家バンクに登録してもらいUターン、Uターン者の入居が決まり賃貸料の入込が見込めた時点で、サービス付き高齢者住宅に入居してもらおうという取り組みはどうか。</p>	<p>サービス付き高齢者住宅と空き家バンクを連携させた施策については、貴重なご意見として承ります。施策の可能性については、他の介護施設等ともどのような連携がとれるか検討してまいります。</p>

(5)基本目標3「結婚・出産の希望をかなえ、子育てを協働で支える環境と、誰もが活躍できる地域社会をつくる」に対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
25	<p>P53の「結婚・出産の希望をかなえ、子育てを協働で支える環境と、誰もが活躍できる地域社会をつくる」について、データ収集分析を追加してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚年齢／出会いのきっかけ／結婚に際して地域に求めること ・親の年代別子供の数 ・年代別／男女別の単身世帯数 ・年代別移動手段の有無 	<p>ご提案のデータ収集・分析につきましては、プライベートに係る項目もあることから、事業を進める中で、必要性も含めて検討してまいります。</p> <p>また、既存の資料により集計が可能と思われる項目もあることから、併せて実施について検討してまいります。</p>
26	<p>P56の「誰もが活躍できる地域社会をつくる」について、旧態依然の組織に執着しては、新しい風が入りにくく、誰もが活躍することが難しいと思うので、市民一人ひとりが将来を描けるよう思いや声をつなげる機会を作ってほしい。</p> <p>現在は、外部の人の力による様々な企画が点として存在しているが、市民との関わりは小さく、将来的に地域に根づかないと考える。外部への依存体制があるように感じる。</p>	<p>市政懇談会や市長と語る会などをはじめ、様々な機会において、市民の皆様の声をお聞きしてきたところであります。今後もより一層、市民の皆様の思いを形にできるよう努めてまいります。</p> <p>また、市内における様々なイベントについて、町内会や祭組などのコミュニティ力の向上、強化に資するよう取り組んでまいります。</p>

(6)基本目標4「市民の安心につながる時代に合った暮らしやすいまちをつくり、地域と地域を連携する」に対するご意見等

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
27	P58の「市民の安心につながる時代に合った暮らしやすいまちをつくり、地域と地域を連携する」について、産科医、小児科医の開業支援、常駐医師の確保の追加を検討してはどうか。	医師確保については、非常に重要であると認識しておりますが、本市単独では難しく、岩手県医師確保計画などと連携しながら医師確保に努めてまいります。また、開業支援については、現在、国保診療所を運営しておりますので、まずはそちらをしっかりと運営してまいります。
28	P60の「観光地における2次・3次交通の構築」について、KPIが、中心市街地と観光地等を結ぶ2次・3次交通の結節点の整備箇所数となっており、これはBRT陸前高田駅周辺を指すものであると思うが、接続点としては既に整備済みであって、これから整備誘致するものは接続点に配置する原付電動バイクやEVレンタカー、超小型ビークル、電動カートなどの事業者ではないか。であればKPIとしては、公共交通を利用して来訪し、原付電動バイクやEVレンタカー、超小型ビークル、電動カートなどを利用した人の数や、2次3次交通手段の種類の数になるのではないか。	KPIの「中心市街地と観光地等を結ぶ2次・3次交通の結節点の整備箇所数」の考え方につきましては、中心市街地への陸前高田駅舎や交通広場の整備に伴う公共交通機関の乗り入れ、また、道の駅高田松原のオープンに伴う、奇跡の一本松駅の移設や、EVレンタルバイク、EVレンタカー等の整備により、一定の成果が得られていると考えているところでありますので、新たな2次3次交通のKPIを設定いたします。
29	P61の相互連携訓練の実施について、命や市民生活を守るということに主観を置いた取組を実施し、相互連携訓練を形骸化させることなく、行政主導から住民主導に移行すべき。 地元に基づいて地域防災計画を推進する防災マイスターについて、認定して終わりになっていると感じる。認定者が地域における組織づくりの主導的な役割を担えるよう、市防災課と連携する協働室を設置し、出前講座を行うなど防災マイスターのスキルアップの機会を作ってほしい。	防災訓練につきましては、内容の形骸化を防ぎ、できるだけ多くの人や機関が参加をすることで、よりリアリティのあるものとなるよう努めてまいります。 また、防災マイスターが中心となり、地域の防災力の向上を図るため、防災マイスターが地域で活動する上で必要となる各種支援の実施を検討してまいります。